

担当 社会福祉課
医療保護・生活困窮者担当
内線 3271

目的

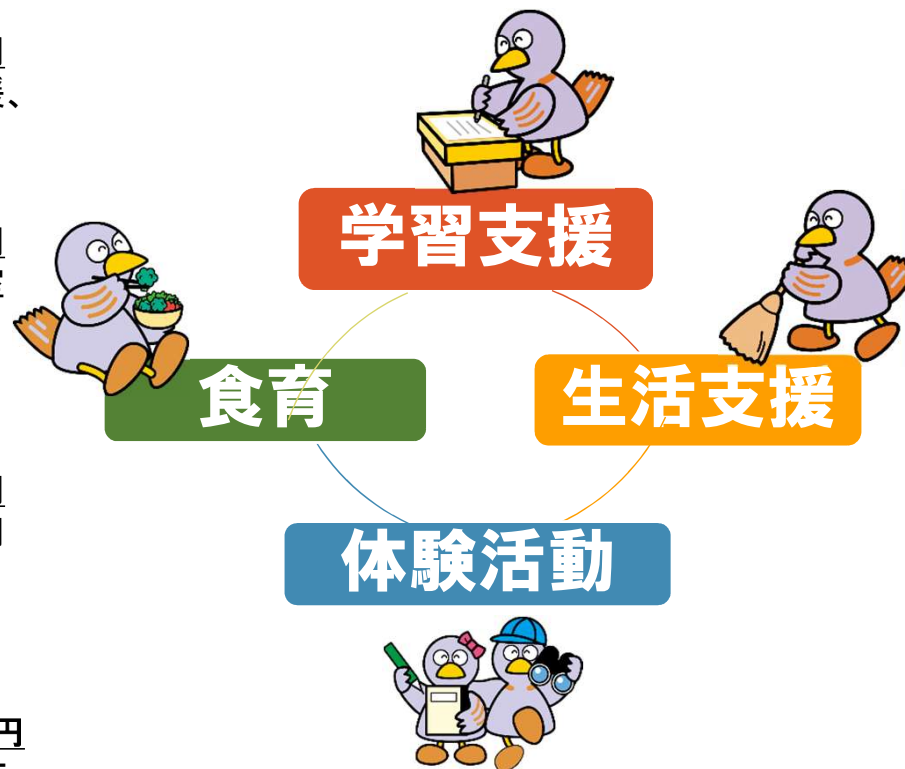
生活困窮世帯及び生活保護世帯の小学生に対して学習支援や生活支援などを実施し、また中学生・高校生事業の実施に向けた切れ目のない支援を行うことにより、貧困の連鎖解消を目指します。

事業概要

寄附募集事業

1 学習支援促進事業 94,370千円

- (1) ジュニア・アスポート事業 70,498千円
町村部において小学生向けの教室を設置し、学習支援、生活支援、体験活動などを実施する。
- (2) ジュニア・アスポートコーディネーター事業 15,860千円
小学生事業を実施する自治体等に対し、コーディネーターが教室の立ち上げ支援、団体との連携支援、体験活動のコーディネート、食材調達支援、訪問支援、各種助言等を行う。
- (3) 中学生・高校生支援の充実・強化事業 6,802千円
中学生及び高校生教室を実施する市に対し、事業の実施及び利用率向上に向けた支援や関係機関との連絡会議の開催等を行う。
- (4) 子供のオンライン学習フォローアップ事業 1,210千円
学習教室でのオンライン学習や家庭訪問時にタブレットの使い方指導などフォローアップを行う。



ジュニア・アスポート事業

学習支援促進事業

生活困窮世帯の子どもを取り巻く主な課題

- 学習面：学力が低い傾向がある・勉強する習慣がない
- 生活面：生活習慣や社会性が身につけていない・家に居場所がない
- 養育面：子の成長に気を配る余裕がない・親子の関わりが少ない など

結果

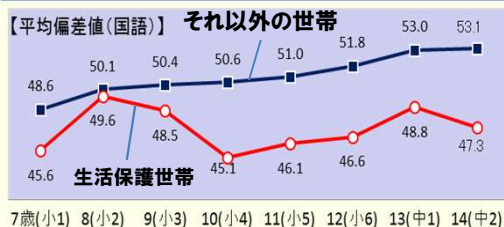
高校への進学が困難となり、安定した仕事に就けず、生活が安定しない

貧困の連鎖を断つことが重要

ジュニア・アスポート事業(小学生教室)

学力や非認知能力（がんばる力）の差は小学4年生頃から拡大

子供の学力の推移



👉 早めの支援が重要

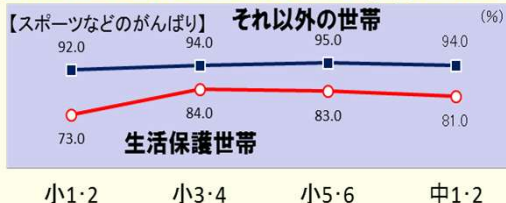
対象

困窮世帯の小学3～6年生

内容

- 学習支援 (予習復習・宿題)
- 生活支援 (身だしなみ)
- 体験活動 (工作・キャンプ)
- 食育 (調理・片付け)

非認知能力(がんばる力)の推移



- わからないことがわからないと言える、一人ひとりに個別のマンツーマン指導を実施
- 食事をきちんととる、身だしなみを整えるなど生活習慣を改善し、いろいろな体験活動を通じて社会性を育てる。
- 子どもと一緒に家庭の抱える問題に対しても相談支援を実施し、家庭環境の改善を図る。

中高生教室参加者の高校進学率・中退率の推移

高校進学率	86.9%	→ 99.5% ↑
高校中退率	開始前 8.1%	→ 1.9% ↓ R4年度

➡ 中高生教室事業のさらなる充実・強化！